vinetur

ボルドー有数のブドウ畑、2021年以降の実質価値が半減超

ポイヤックとマルゴーのブドウ畑は実質価値が約50％下落。輸出低迷と価格決定力の低下、長期化する需給不均衡が背景にある

2026年11月16日（月）



フランスは2026年のワイン生産量予測を上方修正したが、見通しの改善は、同国を代表するワイン産地の一つが抱える圧力をほとんど和らげていない。新たなデータによると、ボルドーが直面しているのは販売や輸出の低迷だけではない。よく知られたアペラシオンの一部では、ブドウ畑の土地価値も2021年以降、実質ベースで大幅に下落している。

フランス農業省は11月6日、国内のワイン生産量が3,670万ヘクトリットルに達する見込みだと発表した。1カ月前の予測は3,490万ヘクトリットルだった。上方修正後も、収穫量は2021～2025年の平均を10％下回る見通しだ。一方、数十年来で最も不作の年の一つとなった2025年の収穫量は3％上回ると予測されている。

全国の見通しの陰には、地域ごとの大きな差がある。ラングドック・ルーションでは、前年の収穫から25％回復する見込みだ。ボルドーは2025年比で10％増と予測されるものの、近年の平均を下回

る水準にとどまる。一方、ブルゴーニュ・ボジョレー地域では、非常に暑く乾燥した生育期を経て、前年より22%減少する見通しだ。

ブルゴーニュでは、2026年の収穫期が例年になく早く訪れた。Comité des Vins de Bourgogneによると、マコネでは8月8日にクレマン用ブドウの収穫が始まり、その数日後にはスティルワイン用の収穫も始まった。同業団体は、冬季の土壌水分が夏のストレスへの耐性を高め、乾燥した気候が深刻な真菌性病害の発生を抑えたと説明した。初期評価では、健全で凝縮感の高いブドウが示されたが、これは生産者による暫定的な見解であり、ヴィンテージの最終評価ではない。

ブルゴーニュ・フランシュ＝コンテ地域の農業当局は、生産量についてより慎重な見方を示している。当局のデータでは、数量面で期待外れの収穫となり、とりわけ赤ワイン用ブドウの不振が目立つ。ブルゴーニュでは、生産者によっては品質面で魅力的な収穫となる可能性がある一方、供給量が明らかに限られる見通しだ。

ボルドーの問題は収穫量にとどまらない。今年は生産量の回復が見込まれるものの、通常の状態に戻ることを意味するわけではない。需要に供給を近づけるため、意図的にブドウ畑の面積を減らしてきたこともあり、生産量は5年平均をなお11%下回る見通しだ。

圧力を最も明確に示しているのは、土地価格かもしれない。フランスの農業統計機関Agresteの数値をAmerican Association of Wine Economistsが再集計し、2025年価格にインフレ調整したデータによると、代表的なブドウ畑の価値は2021年から2025年にかけて急落した。ポイヤックでは基準となる平均価格が1ヘクタール当たり約341万ユーロから170万ユーロへと下がり、50.1%の下落となった。マルゴーでは170万ユーロから80万ユーロに下がり、53.1%の下落だった。

ボルドーのほかのアペラシオンでも大幅な下落が見られた。サンテミリオンは1ヘクタール当たり34万900ユーロから20万ユーロへ、41.3%下落した。ソーテルヌも3万4,100ユーロから2万ユーロへと下がり、下落率は同じく41.3%だった。ジロンド県のAOPブドウ畑全体では、基準となる平均価格が1ヘクタール当たり14万9,600ユーロから8万5,600ユーロへと下がり、42.8%の下落となった。

これらの数値は、すべてのブドウ畑取引で実際に支払われた価格を示すものではなく、著名なシャトーの直接的な評価額でもない。有力アペラシオンでは売買自体が比較的少なく、個々の物件の取引価格は地域平均から大きく離れることもある。それでも、下落傾向は無視できない。長年、ボルドーの一等地を価値が保たれる資産と見なしてきた市場に、将来の収益性への期待低下が表れている。

この影響は土地所有者にとどまらない。ブドウ畑の価値は、借入余力や投資判断、貸借対照表、シャトー売却の条件にも影響する。ワイン業界では、資産価値の低下が資金調達や業界再編、買い手の市場参入意欲を左右する可能性がある。過剰な生産能力の削減を進める地域では、なおさらだ。

輸出データは、こうした期待の変化を説明する一助となる。DRAAF Nouvelle-Aquitaineの数値によると、2025年末時点のボルドーワイン輸出量は約136万ヘクトリットル、金額は約20億ユーロだった。2024年に比べ、数量は9%、金額は7%減少した。

ボルドーにとって最大級の海外市場の一部では、急激な落ち込みが見られた。中国向け輸出は数量で34%、金額で27%減少した。米国向け出荷は数量で14%、金額で約32%減った。例外的な動きを示したのはカナダで、輸出は数量で12%、金額で18%増加した。

圧力はその後も続いた。7月までの12カ月間で、ボルドーの輸出量は約131万ヘクトリットル、金額は18億2,000万ユーロとなった。直前の12カ月間と比べ、数量で7%、金額で14%の減少だ。金額の減少幅が数量を上回っていることは、価格決定力の低下を示唆し、生産者の経営をさらに圧迫している。

一因は、複数の市場で赤ワインの消費が減速する中、ボルドーが赤ワインに大きく依存していることだ。産地ではこれを受け、ブドウ畑の大規模な縮小を進めている。DRAAF Nouvelle-Aquitaineによると、5月までにジロンド県で公的支援を受けた抜根事業の対象となったブドウ畑は1万2,284ヘクタールに達した。さらに約8,700ヘクタールが公的支援なしで撤去された。これにより、2023年8月から5月までに転用された面積は合計約2万1,000ヘクタールとなった。

公的施策の目的は、放棄されたブドウ畑に伴う衛生上のリスクを減らすことだけではなく、生産能力と商業需要の不均衡を緩和することにもあった。それでも、栽培面積を減らすだけでは、流通や市場での位置づけ、消費者の嗜好の変化に関わる問題は解決できない。2026年の収穫量増加は、不作続きの生産者にとって助けとなる可能性がある一方、市場が低迷したまま販売が改善しなければ、価格への圧力を強めることもある。

ブルゴーニュが直面する圧力は異なる。国際需要は同産地でも弱まっているが、輸出実績は全体としてより底堅い。Comité des Vins de Bourgogneによると、2025年のブルゴーニュワインの輸出量は3.7%増加した一方、金額は1.8%減少し、約16億1,700万ユーロとなった。

ただし、その内訳では赤ワインの弱さがより目立つ。American Association of Wine Economistsがまとめたフランス税関のデータによると、アルコール度数15%以下の瓶詰めブルゴーニュAOP赤ワインの輸出額は、2024年の7億4,070万ユーロから2025年には7億73万ユーロへ減少した。下落率は5.4%だった。

このカテゴリーの主要市場である2カ国が、最大の押し下げ要因となった。米国向け販売額は1億5,633万ユーロから1億2,870万ユーロへ減少し、17.7%の落ち込みとなった。英国向け輸出額は1億1,123万ユーロから9,541万ユーロへ減り、14.2%下落した。この2市場だけで4,300万ユーロ超を失った。カテゴリー全体の純減額を上回る規模であり、ほかの市場での伸びが打撃を一部相殺したことを意味する。

日本はおおむね横ばいで、1%増の7,120万ユーロだった。香港は13.4%増の6,082万ユーロ、カナダは8.8%増の2,686万ユーロとなった。シンガポールも増加し、イタリアは13.7%増の1,175万ユーロ、スペインは規模が小さいながら22.9%増となった。一方、中国は6.7%、台湾は15.6%、韓国は14.6%減少した。データ対象のブルゴーニュ赤ワイン輸出額の約18%を米国が占めており、輸出先がより多様化する中でも、米国市場が依然として重要であることが分かる。

ブルゴーニュのビジネスモデルもボルドーとは異なる。同産地は長年、限られた供給量、細分化されたアペラシオン、特定のテロワールやクリマに対する世界的な強い需要を基盤としてきた。この構造は、とりわけ人気銘柄の価値を支えてきた。ただし、市場の減速を免れるわけではない。

ブルゴーニュの同業団体は3月、2025～2026年キャンペーンの最初の6カ月間にドメーヌから出荷された瓶詰めワインが、前年同期の30万4,197ヘクトリットルから28万6,460ヘクトリットルへ減少したと発表した。約5.8%の減少となる。この数値は最終消費者への販売ではなく、ドメーヌからの

出荷を測るものだが、サプライチェーンの上流で需要が慎重になっていることを示している。同時に、2025年の収穫量増加を受けて、バルクワインや果汁、ブドウの流通量は増えた。同業団体によると、在庫は近年の標準的な水準に戻りつつある。

ボルドーとブルゴーニュの対照は、フランスのワイン産業が一様な問題に直面しているわけではないことを示している。ボルドーでは構造的な需給の不均衡が輸出や利益率、ブドウ畑の資産価値を圧迫している。ブルゴーニュは需要の軟化や気候に起因する不確実性に直面する一方、希少性とアペラシオンの個性を基盤とした供給モデルの恩恵を受けている。実際、ボルドーは歴史的に大きな赤ワインの生産基盤を弱い市場で販売しようとしているのに対し、ブルゴーニュはより少なく不安定な生産量で価値と市場シェアを維持しようとしている。